



春江中だより



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

【は】 っけん・気付く 【ル】 ートを考えつながら 【え】 がおを創り出す

「光」に向かって伸びる

校長 横枕 耕史

校長室には4年前春江中に就任時に頂戴した胡蝶蘭の鉢があります。胡蝶蘭には「幸福が飛んでくる」という花言葉や先輩からの無言のプレッシャーもあり、これまで水分や光量に気を配り枯らさぬよう育てています。今年も順調に芽吹き、茎がぐんぐん伸び、蕾をたくさん付けて、立派な花を咲くのを楽しみにしています。水やりの際に気付いたことがあります。それは茎が光の方向に向かって伸び成長することです。調べてみると「光屈性」といいます。植物は光合成に必要な太陽の光エネルギーを効率よく獲得するために、茎が光の方向に伸びて成長を助ける性質があるのです。そのため、窓からの光線にうまく照らされるように茎の成長を見ながら鉢を回しています。

さて、学校教育に「光屈性」の例を当てはめて考えると、「子どもたちが学ぶ意義を見だし、主体的に学びに向かうこと」であると定義できます。そこで子どもたちの成長に必要な「光」とは、その成分は何なのかについて考えてみました。

まず、「好奇心」が挙げられます。好奇心は、子どもたちが新しい知識や経験を求めて自ら学び続ける原動力です。学校で学ぶ各教科の学習内容にはその教科に応じた見方や考え方を学ぶようになっていきます。例えば、授業で学び経験することで新しい気付きや興味が湧き、さらに深く学びたいという気持ちが芽生えます。未知のものとの出会う喜びやスリルがあればあるほど、好奇心が湧き、学びの楽しさを感じ、自己成長を促していきます。そのためより一層の授業改善を進め、子どもたちの学びたいという気持ちに火を灯す好奇心を引き出す授業を目指していきます。

次に「目標設定」が挙げられます。自分の目標をもつことは、子どもたちが自分の進むべき方向を明確にし、努力を続けるための指針となります。例えば、小テストでの高得点を目指し計画的に勉強したり、長距離走で目標タイムを目指し、継続的な練習に励み運動能力を向上させたりなど短・中期的な目標、将来叶えたいことや就きたい職業など長期的な目標、目標設定は達成感を味わい、自己肯定感を高める手助けとなります。ただし、「小さな目標を設定する」ことから始めることが重要です。大きな目標では途中で挫折することもあります。まずは達成しやすい小さな目標を設定し、少しずつステップアップしていくことが大切です。そのよい例として、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手の目標達成シート(曼荼羅チャート)が参考になると思います。

最後に「自己管理能力」です。自己管理能力は、時間や課題を効率的に管理し、自分の行動をコントロールする力です。本校ではフォーサイト手帳を活用し、宿題やテスト勉強の計画を立てて実行することで、学業の成果を上げることを目指しています。自己管理能力は、将来の仕事や生活においても重要なスキルとなります。

「光」といえることはこの他にも考えられますが、中には「悪い光」もあります。私たちは、自分の頭で考えずにネット検索や生成AIですぐに答えを求めたり、SNSのフィルターバブルに流されフェイクニュースに導かれたりすることがあります。そのため、子どもたちが批判的な視点をもち、自分にとって正しい「光」に向かって、自らスクスクと伸び、成長してほしいと思います。